

1 気象概況（6月前半：果樹研究所）
 6月前半の平均気温は、1半旬が19.4℃で平年より0.5℃高く、2半旬が18.8℃で平年より0.5℃低く、3半旬が22.1℃で平年より2.4℃高く、この期間の降水量は29.0mmで平年の75%でした。

2 土壌の水分状況（6月15日現在）
 果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培りんご園）は、深さ20cmが2.8、40cmが2.9、60cmが2.8で、かなり乾燥状態にあります。

3 生育状況（果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大（6月15日現在 暦日比較）

「あかつき」の縦径は44.2mmで平年比105%、側径が41.3mmで平年比109%、「ゆうぞら」の縦径は46.7mmで平年比109%、側径が40.4mmで平年比112%と各々平年より大きい状況です。

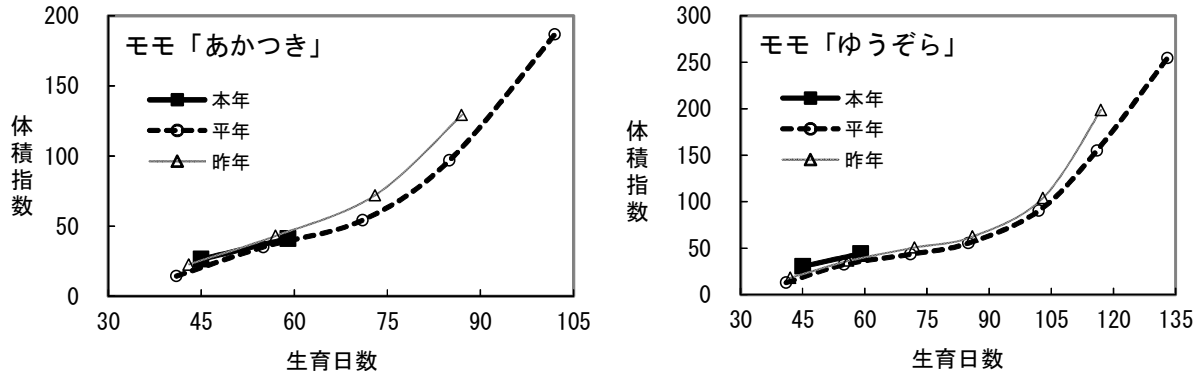


図1 ももの果実肥大

イ 新梢生長（満開後50日 品種：あかつき）
 新梢長は平年比106%と長く、展葉数は平年比111%と多く、葉色（SPAD値）は平年比104%とやや濃い状況でした。また、新梢停止率は平年と比較してかなり早い状況です。

ウ 核障害の発生（満開後55日 品種：あかつき）
 核頂部亀裂の発生率は60%で、平年よりやや多い状況ですが、縫合面の割裂は見られていません。

エ 硬核期開始日と収穫期予測（品種：あかつき）
 硬核期の開始日は5月31日で、平年より11日早い状況でした。
 また、6月15日現在のDVRモデルによる収穫期の予測では、収穫開始は7月25日頃、収穫盛りは7月28日頃で、平年より8～9日程度早まる見込みです。

表1 もも「あかつき」の新梢生長（満開後50日比較） (平年：1996年～2014年)

	新梢長(cm)			展葉数			葉色(SPAD値)			新梢停止率(%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	10.3	9.8	106	14.5	13.2	111	43.3	41.6	104	52.5	28.3	173
ゆうぞら	13.7	9.7	136	16.5	12.7	129	41.7	41.6	100	25.0	37.2	70

表2 ももの発育予測（6月15日現在）

品 種	収穫開始日			収穫盛日		
	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	7/25	8/ 2	8日早い	7/28	8/ 6	9日早い

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1981年～2010年の平均。

(2) なし

ア 果実肥大 (6月15日現在 暦日比較)

「幸水」の縦径は30.3mmで平年比116%、横径が36.8mmで平年比122%、「豊水」の縦径は31.4mmで平年比113%、横径が34.3mmで平年比118%と、各々平年より大きい状況です。

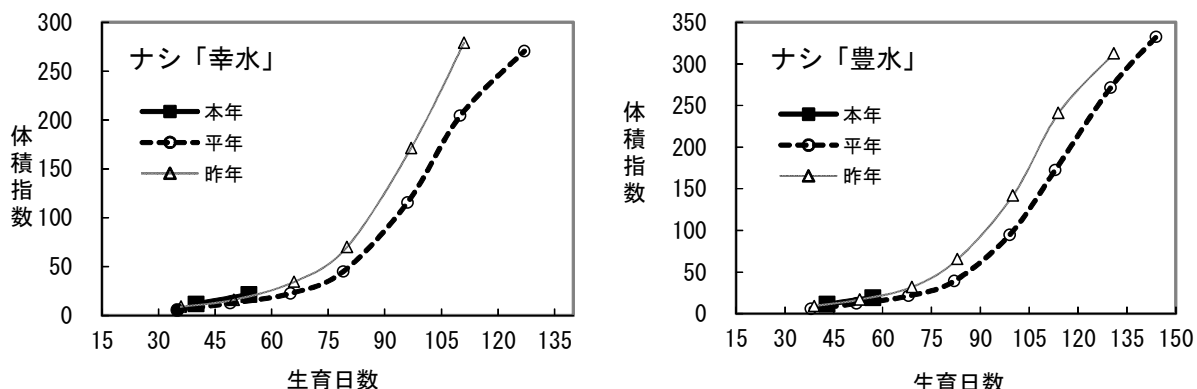


図2 なしの果実肥大

イ 新梢生長 (満開後50日 品種：幸水)

予備枝新梢長は平年比95%とやや短く、不定芽新梢長は平年比116%と長い状況です。

ウ 生育予測 (6月15日現在 品種：幸水)

DVRモデルによる裂果期の予測は、7月5日頃で平年より9日早いと予測されます。

表3 なし「幸水」の新梢生長

満開後 日数	予備枝新梢長 (cm)			不定芽新梢長 (cm)			予備枝葉数 (枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
50	75.9	79.6	95	82.2	70.7	116	21.3	22.6	94

※ 平年値：新梢長は1990年～2013年、葉枚数は1998年～2013年の平均値

(3) りんご

ア 果実肥大 (6月15日現在 暦日比較)

「つがる」の縦径は38.2mmで平年比99%、横径が42.2mmで平年比102%とほぼ平年並、
「ふじ」の縦径は36.9mmで平年比103%、横径が38.7mmで平年比109%と平年より大きい状況
です。

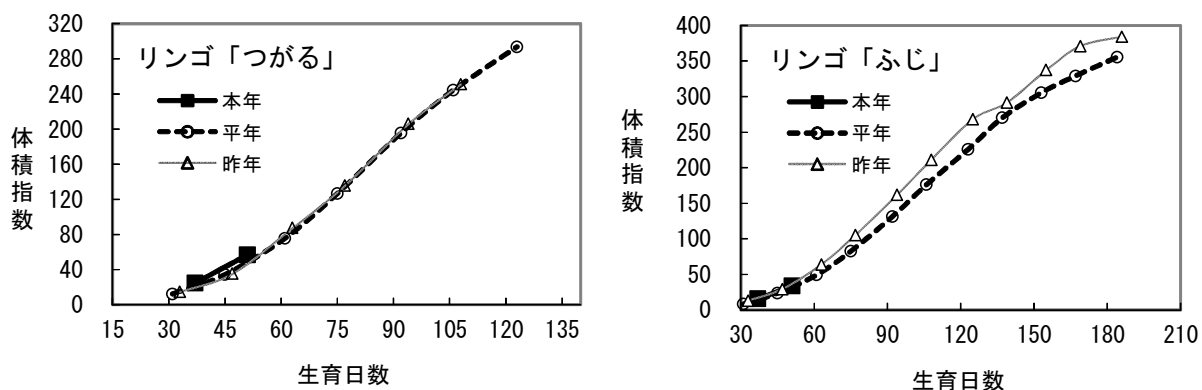


図3 りんごの果実肥大

イ 新梢生長 (満開後40日 品種：ふじ)

新梢長は平年比117%と長く、新梢停止率は100%で新梢停止期となっています。

表4 りんごの新梢長 (cm) と新梢停止率 (%)

品種	満開後 日数	新梢長				新梢停止率 (%)	
		本年	昨年	平年	平年比 (%)	本年	昨年
つがる	20	14.9	12.7	13.1	113	8.9	3.3
	30	17.1	17.9	17.5	98	62.2	20.0
	40	17.5	23.6	20.0	87	97.8	80.0
ふじ	20	18.7	-	15.5	120	20.0	-
	30	21.9	21.1	18.4	119	68.9	60.0
	40	22.3	20.6	19.1	117	100.0	93.3

供試樹：「つがる」/M.26/マルバカイトウ 9年生、「ふじ」/マルバカイトウ 13年生
 新梢長平年値は、1996年～2010年の平均

(4) ぶどう

ア 開花状況 (巨峰「有核栽培」)

開花始めは5月24日、開花盛期は5月28日で各々平年より14日早い状況でした。

イ 新梢生長 (発芽後50日 品種：巨峰「有核栽培」)

新梢長は平年比118%と長く、展葉数が平年比111%と多くなっています。

表5 「巨峰 (有核)」の新梢生長

発芽後 日数	新梢長 (cm)					展葉数 (枚)				
	H27	H26	H25	平年	平年比 (%)	H27	H26	H25	平年	平年比 (%)
30	35.3	24.5	27.5	31.5	112	6.4	7.2	6.5	6.9	93
40	46.9	28.8	50.8	44.3	106	8.9	10.0	9.1	9.0	99
50	63.7	49.3	65.3	54.1	118	11.9	11.8	11.3	10.7	111

注) 平年値は1998年～2014年の平均。発芽日は、H27 ; 4月14日、H26 ; 4月17日、H25;4月18日

東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成27年6月11日発表)

今後の気温の経過は、1週目 (6月13日～6月19日) は平年並の確率が50%、2週目 (6月20日～6月26日) は平年並及び低い確率が各々40%、3～4週目 (6月27日～7月10日) は平年並の確率が40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○ 季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

4 栽培上の留意点

(1) 共通

現在、かなり乾燥状態にあるため、以下の対策を講じましょう。

ア かん水

10a当たり25～30tを1回のかん水の目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。なお、保水性が劣る砂質土壌等では、1回の量を少なくし、間隔を短くして回数を増やしましょう。

イ 草生管理

草生栽培の園では、樹と草との水分競合を防ぐため、草刈りを行いましょう。なお、地際部まで刈ると放射性物質をまき上げる可能性がありますので注意しましょう。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチにより、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) もも

ア 修正摘果

硬核期が終了し、果実に肥大差が見られるようになったら修正摘果を実施しましょう。

- 特に
- ① 果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実
 - ② 果面からヤニが噴出している果実
 - ③ 果皮及び果肉が変色している果実
 - ④ 果頂部の着色が早い果実

等は、核や胚に障害がある場合が多いので、これらに注意して摘果を行いましょう。

また、核障害の発生が多い園では、修正摘果は2～3回に分けて実施し、形質の良い果実を残すように努めましょう。

イ 着色管理

枝吊りや支柱の設置、夏季せん定及び反射シートの設置等の収穫前の管理作業は、時期が遅れないよう計画的に実施しましょう。

ウ 収穫上の注意

核障害のある果実は胚に障害が見られることが多い傾向があります。硬核期以降に胚が障害を受けた場合、多雨条件下では生理落果や早熟になる場合がありますので、収穫が遅れないよう注意しましょう。

(3) なし

ア 着果管理

予備摘果終了後、速やかに仕上げ摘果を実施しましょう。この際、樹勢や果実肥大の低下が見られる場合は、新梢停止期前（満開後60～70日、6月下旬～7月上旬頃）に着果数の10～15%程度を目安に摘果して着果数を制限しましょう。

イ 新梢管理

「幸水」で副芽枝新梢が多い場合は、摘心を行いましょう。この時、側枝基部（20～40cm）を対象に、ロゼット状の基部葉とその上位節2～3節を残して摘心すると果実肥大促進と花芽形成の効果が期待できます。

「豊水」では、満開後60日頃に新梢伸長が緩慢となる予備枝について、直ちに誘引を開始しましょう。また、下垂して向きの悪い新梢等は方向を修正しましょう。なお、側枝先端の新梢は立てるように誘引し、受光態勢や薬剤の透過を改善しましょう。

ウ 予備枝の管理

「幸水」の予備枝の誘引適期は、新梢停止期の約10日前頃（満開後65日頃）からとなりますので、計画的に実施しましょう（新梢の生育状況は新梢長が90～100cm、展葉節数が23～26の頃）。

(4) りんご

ア 着果管理

仕上げ摘果の遅れは、翌年の花芽分化の低下の原因となりますので、満開後60日頃までに終了するよう心掛けましょう。

なお、仕上げ摘果は、「つがる」は3頂芽に1果、「ふじ」「陽光」「ジョナゴールド」等の品種は4頂芽に1果を目安に実施しましょう。

摘果に当たっては、果形や肥大状況等をよく確認し、小玉果や変形果、病虫害果等以外の形質の良い果実を残しましょう。凍霜害等により結実の少ない園では、着果数の確保を優先し、著しい不良果そうを対象に摘果は最小限に実施しましょう。

イ 新梢管理

主枝や亜主枝（骨格枝）の基部付近の背面から発生した徒長枝はせん除し、受光態勢や薬剤の透過を改善しましょう。

(5) ぶどう

ア 摘房・摘粒

早めの摘房は、果実品質の向上と他の作業労力の軽減のために有効ですので、着房させる位置を確認しながら速やかに実施しましょう。

摘粒は、実止まりが確認でき、有核果と無核果の区別がつくようになった頃から開始しましょう。なお、摘粒の時期が遅れると果粒同士が密着し、はさみが入りにくくなり作業性が低下するので注意しましょう。

イ 新梢管理

実止まり確認後、特に強勢な新梢や混み合っている部分の新梢を切除し、棚面の明るさを確保しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア ももせん孔細菌病

春型枝病斑の発生量は中通り北部で「かなり多い」状況（平成27年5月26日付け病虫害防除発生予察情報注意報第3号）にあり、今後、激発するおそれがあります。

第一次伝染源の春型枝病斑や第二次伝染源の発病葉及び果実を取り除く等の耕種的防除と薬剤散布の徹底を図りましょう。また、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう心掛けましょう。

イ なし黒星病

果そう基部病斑等が多い状況（平成27年5月8日付け病虫害防除発生予察情報注意報第2号）にありますので、羅病部位は見つけ次第除去し、適切に処分するとともに薬剤による防除を徹底しましょう。今後の降水により、二次感染を繰り返すおそれがありますので、防除に当たっては、散布間隔が10日以上開かないよう心掛けるとともに、薬剤の散布量は10a当たり300リットル（スピードスプレーヤの場合）を遵守しましょう。

ウ りんご腐らん病

梅雨期以降、感染が拡大するおそれがありますので、枝腐らんや胴腐らんは、病患部の周囲の健全部まで5cm程度を切り取るか若しくは削り取るよう心掛けましょう。

また、摘果後の果柄（果梗）からの病原菌の侵入が同病の拡大を助長しますので、離層形成部位から摘果し、果柄（果梗）を残さないよう注意しましょう。

エ りんご輪紋病・斑点落葉病・褐斑病

梅雨期は上記病害の重点防除期に当たるため防除を徹底しましょう。

オ ももホモプシス腐敗病・灰星病

梅雨期はホモプシス腐敗病の重点防除時期に当たりますので、本病に効果の高い薬剤を散布するとともに、伝染源となる芽枯れや枝枯れはせん除し、園外に持ち出すなどして適切に処分しましょう。

また、灰星病は果実の成熟とともに感染しやすくなるため、薬剤散布に当たっては十分な量の薬液を散布しましょう。

カ ぶどう晩腐病

果面の汚れを防ぐため、袋掛けが終わるまでは展着剤の使用を控えるとともに、幼果期頃の散布後にカサ掛けを行う等、対策を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

次世代の防除適期は6月6半旬～7月1半旬頃と推定されます。

本種の発生は放任園や観賞用の無防除ハナモモ等の栽培園が影響していると考えられるため、発生源が近隣にある園地では、発生に注意しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

次世代の防除適期は6月5半旬～6月6半旬頃と推定されます。

本種の第1世代幼虫は、主にモモ等の核果類の新梢に寄生（芯折れ症状）し、第2世代以降はナシなどの果実に移行します。例年、ナシで果実被害が多い地域では、近隣のモモ園の防除も徹底しましょう。

ウ モモノゴマダラノメイガ

被害が発生しているモモ園では、他のシンクイムシ類との同時防除も含め、6月2半旬以降、10日間隔で2～3回防除を行いましょ。

また、被害果は見つけ次第摘除し、5日間以上水漬けにするか、土中深く埋めましょ。

なお、前年に被害が多発した園では早急に袋かけを行いましょ。

表6 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成27年6月15日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第2世代成虫盛期	第3世代防除適期	第1世代成虫盛期	第2世代防除適期
2℃高い	6月23日	6月27日	6月14日	6月22日
平年並み	6月24日	6月29日	6月14日	6月24日
2℃低い	6月26日	7月2日	6月14日	6月26日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 モモハモグリガ：5月28日、ナシヒメシンクイ：4月27日

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

農業総合センター（本部、果樹研究所、会津地域研究所、農業短期大学校）の生育状況を掲載していますので、参考にしてください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#tokubetsujyohou>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL: <http://www.new-fukushima.jp/>